

1月の衛研検査情報

～トピックス～

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果（平成30年5月～10月）

当所では、健康福祉局蚊媒介感染症サーベイランス事業の一環として市内公園において蚊成虫生息状況調査を行っています。蚊媒介感染症は、デング熱、ジカウイルス感染症、ウエストナイル熱、チクングニア熱、日本脳炎、マラリアなどがあり、それぞれ主要媒介蚊が異なります。そのため、感染症発生時対策として、平常時から地域特有の蚊成虫生息状況を把握しておくことが必要です。

平成30年は電池式ライトトラップ（CDC型：ドライアイス併用）を用いた蚊成虫捕獲調査を市内25か所（各10回、リスク地点は各12回：6か所）で行いました。ライトトラップの設置回収は、各区福祉保健センター、（公社）神奈川県ペストコントロール協会、衛生研究所が行いました。また、山下公園（中区）では、捕虫網を用い、ヤブカ属の捕獲を目的とした人^{ひとり}囿法も公園内3定点で全12回行いました。

捕獲された蚊は調査場所ごとに種類を同定し、雌成虫については、ウイルス検査担当による、フラビウイルス属（デングウイルス、ジカウイルス、ウエストナイルウイルス、日本脳炎）及びチクングニアウイルスの遺伝子検査を実施しました。

主な結果 ライトトラップ法により捕獲された蚊成虫の雌雄合計は、5属10種10,284個体でした。最も多く捕獲された種類は、ヒトスジシマカ7,814個体（76.0%）でした。次いで、アカイエカ群が1,638個体（15.9%）、ヤマトヤブカが409個体（4.0%）、キンパラナガハシカが157個体（1.5%）、コガタアカイエカが45個体（0.4%）捕獲されました。

人^{ひとり}囿法により捕獲されたヒトスジシマカの雌成虫は392個体、雄成虫は376個体、合計768個体でした。ヒトスジシマカの捕獲数は、山下公園内定点③（世界の広場端の緑地）で、初夏（5/16）に9個体でしたが、8月より増加し、8/22に27個体、9/19に71個体、10/17に61個体と他の調査定点より非常に多く捕獲されました。

雌成虫について実施した蚊媒介感染症ウイルス遺伝子検査は、全て陰性でした。

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所WEBページでは、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報などを提供しています。検査情報月報では、アクセス件数をもとに、どのような情報に関心が寄せられているかを解説しています。



主な結果 平成30年12月は、大麻（マリファナ）、疥癬（かいせん）ってなあに？（電子パンフレット）、インフルエンザの流行情報、B群レンサ球菌（GBS）感染症、水痘（水疱瘡）・带状疱疹に関するページのアクセスが多くみられました。総件数は150,512件でした。



詳しくは横浜市衛生研究所ホームページをご覧ください

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/inspection-inf/>



横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査などの結果に解説を加えて、毎月、「検査情報月報」として報告しています。